

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立豊住小学校

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・小規模特認校の充実を図る
- ・全職員で全校児童を担任している意識を高める
- ・一人一人のよさをいかした全職員で学校運営意識を高める
- ・課題を共有し共通理解・共通行動を徹底する
- ・業務改善の推進による働き方改革を実践する

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	PTA総会や行事、学校だより、マチコミメール、ホームページ、地区の回覧等、学校の様子を伝えと共に、教育方針の下、教育活動が進められていることを伝える。
学習指導	授業や行事等を参観する機会や、保護者会・個人面談等、家庭と話し合う機会を十分設けている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	家庭学習について、児童の評価は94.4%と高いことと、学習ファイルを活用して全校で統一して取り組んでいることを伝えながら、家庭と連携していけるようにする。
生徒指導	学校は、いじめや暴力のない学校作りに取り組んでいる。	88%の保護者が肯定的な回答をしている。	B	友達関係について、児童の評価は100%であり、道徳の授業での取組の成果も出ているので、継続して共通理解と共通行動を図っていく。保護者への理解についても丁寧かつ誠実に組織で対応する。
健康増進・体力向上	学校は、子どもの健康増進・体力の向上に向けた取組を行っている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	児童の評価も100%であり、計画的・系統的なアクティブタイムの活用の充実と健康教育の推進を進めていく。健康的な生活
学校環境	学校の校舎内外は整備され、安全で清潔な教育環境になっている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	安全で機能的な学校環境となるよう定期的な安全点検を徹底する。必要に応じて点検や整備を継続する。
保護者、地域住民との連携	学校は、地域人材やボランティアを活用した教育環境を整え、社会体験活動を十分にしている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	全校での取組の成果があった。学校運営協議会での話し合いでの意見をもとに、さらに地域と連携した活動を充実していく。

4 自己評価の結果の分析

- ・保護者アンケート結果からは、概ね肯定的な回答であった。特に、ICT教育の推進や地域人材を活用した取組、体力向上の取組についての回答が100%であった。生活習慣の確立や家庭学習の習慣化については、課題として捉えており、家庭との連携を図りながら具体的な取り組みを伝えていく。
- ・保護者の意見としては、全校で取り組んだ豊住プロジェクト(栽培・生産活動等)の様子から、一人一人を大切にしたい取組となっているとの声があり、小規模特認校としての特色を生かしていた活動の成果になった。さらに「専門家による陸上の指導」の機会があるとよいという意見から、講師を依頼し陸上教室を行った。さらに、学校・家庭・地域が連携して本物に触れる活動を取り入れた特色ある教育活動を提案していく。
- ・児童アンケート結果からは、生活面では、「友達と仲良く」が低学年・高学年とも80%を超え、「進んで体力づくり」の設問では、低学年も高学年も100%と肯定的な回答が多かった。また、「読書活動」についても低学年は肯定的な回答は高くなり、図書館教育と関連しての活動の成果があった。生活習慣については、全体的に課題である。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立 豊住小 学校
-----	-------------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

学校関係者評価委員

日暮 健
藤田 久男
野平 浩明
森田 巖
根本 伯夫
宮本 雄多
飯岡 美紀
渡邊 龍平
織笠 勇次
鈴木 公子
伊藤 謙一
宮田 幸世
諏訪 秀明

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・小規模特認校の充実を図る
- ・全職員で全校児童を担任している意識を高める
- ・一人一人のよさをいかした全職員で学校運営意識を高める
- ・課題を共有し共通理解・共通行動を徹底する
- ・業務改善の推進による働き方改革を実践する

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	今後もPTA総会や行事、学校だより、マチコメール、ホームページ、地区の回覧等、学校の様子を伝えると共に、教育方針の下、教育活動が進められていることを伝える。	A	A
	授業や行事等を参観する機会や、保護者会・個人面談等、家庭と話し合う機会を十分設けている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	豊住プロジェクトについて、児童一人一人が主役で、親子や卒業生・家族など様々な人との関わりがあった。一人一人が主役になれる部分が多いことで、「やりとげた」「できた」という達成感が自信につながるので、体験の積み重ねが自信になって次のステップに進めるとよい。児童の意見も取り入れながらワクワクする活動が継続できるとよい。行事の精選も必要だが、地域と共に学ぶ、地域を学ぶ(地域を知る)ことも大事なので、誰もが主役になれる場面を作れるように、地域の力を提供しながら学校を作り上げていけるとよい。					
学習指導	学校は、基礎学力向上のための取組を行っている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	基礎学力の定着について児童の評価は96%と高いので、取組を継続する。家庭学習については、児童の評価も下がっているため、ICTを活用する等具体的な手立てを講じる。	A	A
	学校は、家庭学習が習慣化するための取組を行っている。	96%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	少人数のよさが生かされ、一人一人に目を向け、細かいところまで配慮しながら、児童に関わっていると感じる。教室・学校環境からも、学習の様子や積み重ねの成果がわかり、児童一人一人を大切にしていることが伝わる。先生方の多忙さが問題になっているが、笑顔でゆとりをもって、子どもたちに向き合えることを願っている。検定を引き続きがんばってほしい。					
生徒指導	学校は、子どもがきまりや約束を守って生活できるように計画的・継続的に指導を行っている。	100%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	きまりや約束については、児童の評価も93%と高いので、継続した指導をする。いじめについては、児童の評価も98%と上がったため、継続して共通理解と共通行動を図っていく。生徒指導の	A	A
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	88%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	学校が児童にとって安心して学習・生活できる安全な場所であることは、最も重要。日々、保護者と共に努力していることがわかる。相談しやすい人間関係づくりをさらに充実していくことと、必要がある場合には速やかに関係機関と連携を図る。ことを今後も行ってほしい。個々の実態、ニーズの把握、そして指導方針を立てるなど、保護者と共に行うことが信頼につながるものと思う。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

- 地域とともにある学校づくりの推進
小規模特認校として6年目を迎える。特色ある教育課程の編成についてはほぼできあがったが、実践をしながら工夫改善を図っていく。豊住未来プロジェクトとして取り組み、教科横断的な教育活動の実践を通して、さらに体験的な活動を取り入れて、児童の自主的な取り組みを促していく。また、学校・家庭・地域が連携して学校経営を進め、コミュニティスクールの仕組みを生かし、地域教材の開発や地域の物的・人的資源の有効活用を継続し、教育力の向上を推進する。
- 小規模校の利点を生かした教育活動
少人数のよさを生かした学習形態や学習過程の工夫を意図的に取り入れて、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進する。また、発達段階に応じたキャリア教育や体験的な学習を充実し、小規模校だからできる教育課程の工夫をしていく。さらに、一人一人の特性に応じた指導・支援を行い、連続性のある多様な学びの場をつくり、組織的な支援体制の整備をしていく。
- 交流学習の推進
学び合える環境をつくり、自分の考えを広げたり、深めたりして、児童の主体的な学びの力を育成していく。異学年交流や縦割り活動、全校での活動、他校との交流活動を充実し、児童が自ら課題意識をもって多様な見方・考え方を働かせることができる学びの場をつくる。
- 学校地域本部がスタートする学校運営協議会と連携して機能するようにしていく。
- 生徒指導、特別支援教育の充実